

三菱マテリアル株式会社

IR経営説明会資料

2020年 12月 16日

三菱マテリアル株式会社

取締役 執行役社長 小野 直樹

目次

- 1. 業績サマリー ... P. 3-6
- 2. 中期経営戦略（20-22年度）の進捗 ... P. 8-11
- 3. 個別事業の取り組み ... P. 13-32

1. 業績サマリー

2021年3月期 2Q累計実績（前年実績対比）

前年実績対比

売上高 : 金属事業は増収となったものの、その他の事業が減収となり、全体で減収
営業利益 : 金属事業及びアルミ事業等は増益となったものの、その他の事業が減益となり、全体で減益
経常利益 : 営業利益減少により減益
当期純利益※ : 経常利益減少に加え、特別損益の悪化等により減益
配当金 : 中間配当見送り

（単位：億円）	2020年3月期 2Q累計 実績（a）	2021年3月期 2Q累計 実績（b）	増減 （b） - （a）
売上高	7,484	7,255	△228
営業利益	169	68	△100
経常利益	272	164	△107
当期純利益※	45	△191	△236
1株当たり配当金（円）	40	0	△40
為替レート（対US\$）	109円	107円	△2円
銅価格（LME）	270¢/lb	269¢/lb	△1¢/lb

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

2021年3月期 2Q累計実績（20.8.6公表 予想対比）

20.8.6公表 予想対比

売上高 : セメント事業及びアルミ事業等は減収となったものの、高機能製品、加工事業、金属事業及び環境・エネルギー事業が増収となり、全体で増収
営業利益 : セメント事業は減益となったものの、その他の事業が増益となり、全体で増益
経常利益 : 営業利益の増加に加え、受取配当金増加等により、増益
当期純利益※ : 経常利益は増益となったものの、特別損益等の悪化により減益
配当金 : 前回予想を据え置き

（単位：億円）	2021年3月期 2Q累計 予想 (a) (20.8.6 公表)	2021年3月期 2Q累計 実績 (b)	増減 (b) - (a)	2021年3月期 2Q累計 予想 (20.9.29 公表)
売上高	7,200	7,255	+55	7,100
営業利益	△20	68	+88	50
経常利益	0	164	+164	140
当期純利益※	△50	△191	△141	△200
1株当たり配当金（円）	0	0	-	
為替レート（対US\$）	107円	107円	-	
銅価格（LME）	266¢/lb	269¢/lb	+3¢/lb	

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

2021年3月期 通期業績予想（20.8.6公表 予想対比）

20.8.6公表 予想対比

売上高	： 加工事業、セメント事業及びアルミ事業等は減収となったものの、高機能製品、金属事業及び環境・エネルギー事業が増収となり、全体で増収
営業利益	： セメント事業は減益となったものの、その他の事業が増益となり、全体で増益
経常利益	： 営業利益の増加に加え、受取配当金増加等により、増益
当期純利益※	： 特別損益等の悪化があるものの、経常利益の増加により赤字解消
配当金	： 前回予想を据え置き

【収益対策】 新型コロナウイルス等による足許の需要縮小に対し、約250億円の収益対策を実行中。

（単位：億円）	2021年3月期 通期業績 予想 (a) (20.8.6 公表)	2021年3月期 通期業績 予想 (b) (20.12.16 公表)	増減 (b) - (a)	2021年3月期 通期業績 予想 (20.9.29 公表)
売上高	14,100	14,500	400	14,200
営業利益	△50	80	130	0
経常利益	0	200	200	70
当期純利益※	△100	0	100	△200
1株当たり配当金（円）	40	40	-	
為替レート（対US\$）	107円	106円	△1円	
銅価格（LME）	278¢/lb	288¢/lb	10¢/lb	

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

ロバートソン・レディ・ミックス社（RRM社）等における事案について

※詳細は、「2021年3月期第2四半期報告書提出に関するお知らせ」（2020年12月16日公表）をご参照下さい。

事案の概要	米国の連結子会社であるRRM社等において、RRM社の一部の経営幹部が共同出資する企業との間での取引事実が判明（本件事案）	
調査の概要	A：本件事案の事実関係に係る調査 C：当社グループにおける類似事案の存否の調査	B：本件事案以外の不適切な取引の存否の確認
調査結果	A：過大な金額の請求事実が判明 ▶当社の2021年3月期連結財務諸表への影響：親会社株主に帰属する当期純利益 △293百万円	

本件事案の発生原因

- ①経営幹部に対する不十分な牽制
[RRM社の成功を支えた風土維持のため関与を最小化]
- ②不十分な内部実情把握
[定期的な経営状況報告の機会にとどまり内情把握に至らず]
- ③経営幹部への権限集中とトップに従う風土
[オーナー企業としてトップダウン経営で成長してきた歴史]
- ④利益相反取引を明確に禁止する内規の未整備
- ⑤RRM社の脆弱な内部通報制度

RRM等における再発防止策

- コンプライアンス体制強化[①/②/③/④]
 - 1)管理チーム設置、決裁事項の事前審査実施
 - 2) Compliance Officer, Staffの配置
 - ・新規/既存取引先の状況確認
 - ・不正取引防止/内部統制プロセスの改善と内規整備
 - ・コンプライアンス教育の実施
 - ・不正行為調査/不正発見監査の実施
- 弁護士等を窓口とする外部通報窓口の設置 [⑤]
- 株主からの経営幹部派遣による経営体制の刷新・強化 [①/②/③]
- 取締役会の実効性向上による子会社幹部との対話強化等 [①/②/③]

グループ全体の内部統制強化策（経営幹部による不正の未然防止・早期発見）

- 内部牽制の強化（親会社からの常勤役員の複数名派遣又は親会社から派遣する非常勤役員による監督機能の強化、兼業・関連当事者取引開始時の申告・状況確認、海外子会社内部通報制度の導入、内規類整備）
- 役員の意識向上策の充実（役員ガバナンス研修の拡大）
- 親会社・子会社の管理部門間(第二線)のコミュニケーション強化
- 内部監査の拡大

2. 中期経営戦略（20-22年度）の進捗

新型コロナウイルス感染症による事業環境の変化を踏まえ、現在、中長期的な業績への影響や株主還元方針を含む財務計画などを精査中であります。今後、公表の必要性が生じた場合は速やかにお知らせ致します。

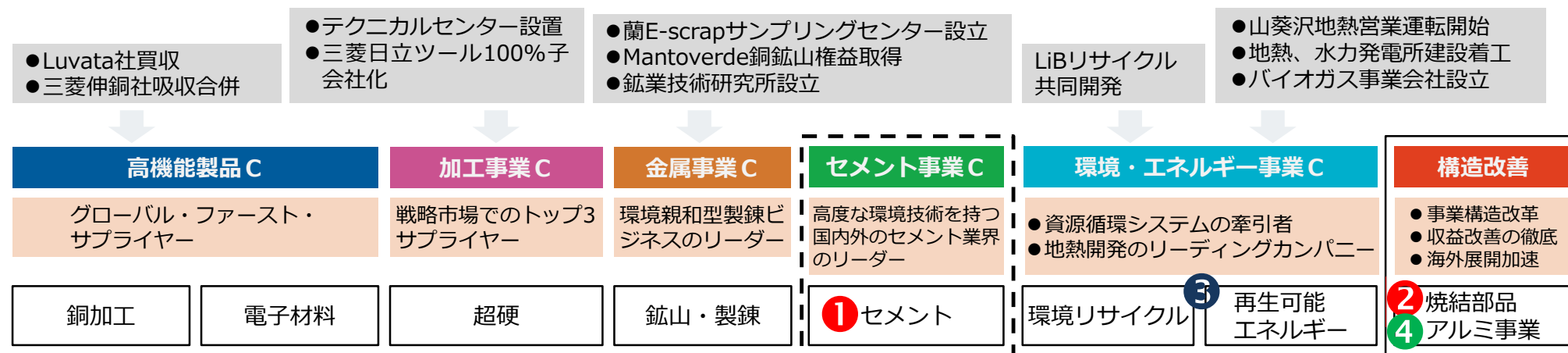
事業ポートフォリオの最適化

<全社方針>

- 事業ポートフォリオの最適化
- 事業競争力の徹底追求 ⇒ ものづくり戦略、品質管理戦略、デジタル化戦略
- 新製品・新事業の創出 ⇒ 研究開発・マーケティング戦略

事業構造改革の動き

凡例 C : カンパニーの略
 〇 : 事業の長期目標



銅管事業譲渡予定(コベルコマテリアル銅管)

①

- 宇部興産社とのセメント事業等の統合契約書締結
- 2022年4月、統合新会社発足

②

- 2020年12月4日、ダイヤモンド社株式譲渡完了

③

- 2020年9月4日、ニューエナジーふじみ野社操業開始（食品廃棄物バイオガス化）

④

- 三菱アルミ社、構造改善策を実施中

事業競争力の徹底追求

<全社方針>

- 事業ポートフォリオの最適化
- 事業競争力の徹底追求 ⇒ ものづくり戦略、品質管理戦略、デジタル化戦略
- 新製品・新事業の創出 ⇒ 研究開発・マーケティング戦略

デジタル化戦略

デジタルトランスフォーメーション（DX）により、「ビジネス付加価値向上」「オペレーション競争力向上」「経営スピード向上」の3本柱を強化し、当社グループが目指す「リーディングカンパニー」を具現化。

ミッション	狙い（※）	重点領域	
今を強くする	オペレーション競争力強化	●マーケットインテリジェンス強化 ●顧客・営業データ活用によるアジャイル開発 ●デジタルマーケティング	●需給管理体制強化 ●品質管理、安全管理
	経営スピード向上 業務効率向上	●経営指標の常時可視化 ●基幹システムの整備	●業務の効率化 ●業務の標準化とマニュアルなどのデジタル化
	データ基盤整備 データの共有・活用	●データ基盤整備と経営インテリジェンス ●既存データの活用促進	●データ分析力向上
明日を創る	ビジネス付加価値向上	●ソリューション提案力強化 ●新たな材料・製品の迅速な開発	●モノ＋デジタルサービス ●リサイクルビジネスの強化
人を育てる	変革を支える 人材強化、風土改革	●DX人材の育成 ●デジタルマインド、リテラシーの向上	●人材ポートフォリオの可視化と活用

※狙い：3本柱とDX基盤の強化

進捗状況

2020年度上期に、重点領域において取り組むべきテーマを選定し、投資、リソース、スケジュール等に関する実行計画を策定。下期より計画の詳細化およびプロジェクト実行を開始。

新製品・新事業の創出

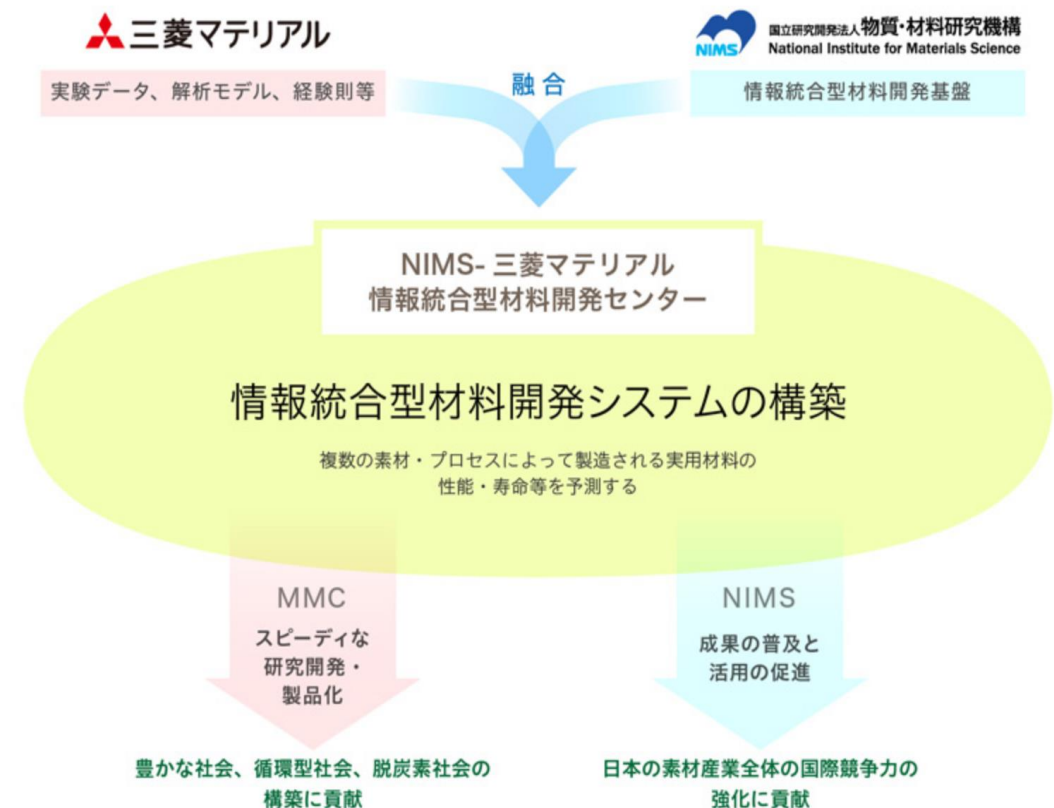
<全社方針>

- 事業ポートフォリオの最適化
- 事業競争力の徹底追求 ⇒ ものづくり戦略、品質管理戦略、デジタル化戦略
- 新製品・新事業の創出 ⇒ 研究開発・マーケティング戦略

「NIMS-三菱マテリアル情報統合型材料開発センター」の設立

- 国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）の情報統合型材料開発基盤※1に、当社が材料開発において蓄積した実験データや解析モデル、経験則等さまざまな要素を融合させることで、複数の素材・プロセスの組み合わせによって製造される実用材料の性能・寿命等を予測する情報統合型材料開発システムを構築。
- 2025年までに、非鉄金属、薄膜材料、無機有機複合材料等を対象とした本システムの構築を目指す。

※1.データ科学、計算科学、理論、実験、シミュレーションなど様々な情報（データ）と科学技術を融合させて材料開発をするための研究基盤



サステナブル経営

サステナブル経営推進本部の設置（2020年4月1日）

- 企業理念に則り、事業活動を通じて、持続可能な社会構築への貢献と中長期的な企業価値の向上の両立を実現
- サステナビリティ（持続可能性）を巡る経営課題を定め、一元的な対応を推進

専門部会

コミュニケーション部会	ステークホルダーとのコミュニケーションに関する情報交換、対応方針協議	環境管理部会	環境法令違反ゼロ・環境事故ゼロを目指して
本社機能効率化部会	デジタル化を前提にした効率的で生産性の高い働き方の追求	品質管理部会	品質管理および再発防止策に関する情報共有と施策の協議、推進
ガバナンス部会	組織横断的なガバナンス強化施策の推進	情報セキュリティ部会	情報セキュリティリスクから情報資産を保護し、企業活動を正常に維持する
コンプライアンス部会	コンプライアンスに関わる施策などの方針協議、情報共有	ゼロ災推進部会	マテリアルグループのゼロ災を目指して
リスクマネジメント・危機管理部会	重大リスクや危機事態への対応に関する協議、課題や実効性のモニタリング	健康経営推進部会	「健康経営」の取り組みを継続的かつ実効性をもって展開
気候変動対応部会	地球温暖化・気候変動に関する当社グループ課題の明確化、対応協議		

3. 個別事業の取り組み



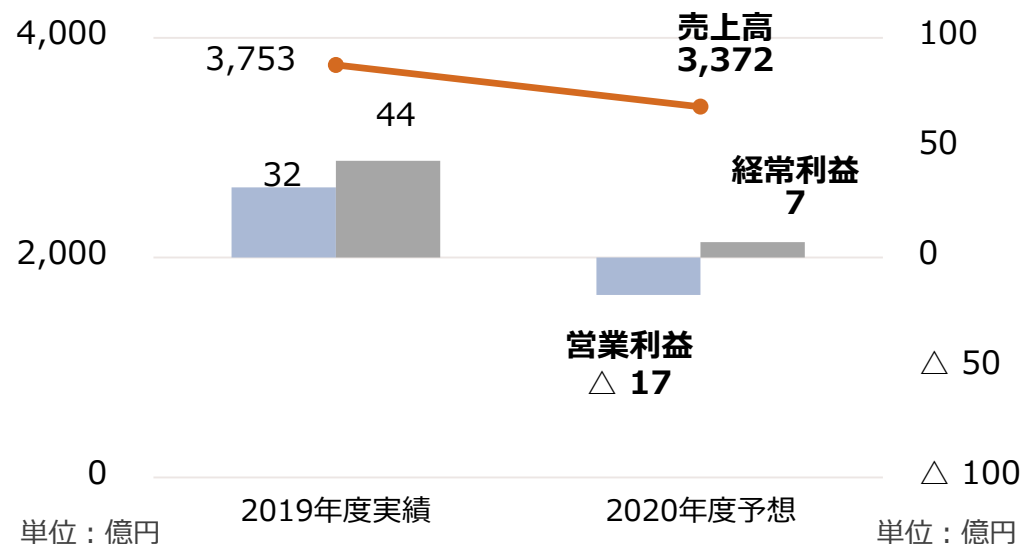
高機能製品





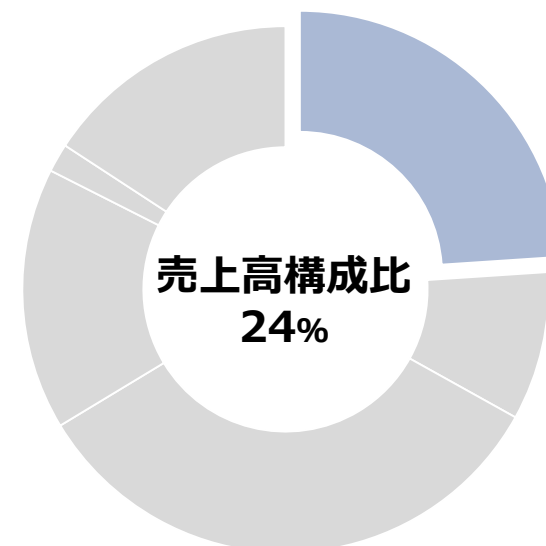
高性能製品

連結業績推移



事業別売上高比率

※外部顧客への売上高（2020年3月期）



2020年度 事業概況

◆ 銅加工

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自動車向け端子材や溶接関連製品等の需要が減少。
- ・第2四半期を底に回復するものの、前年度水準までの回復には至らない見通し。

◆ 電子材料

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自動車向け製品の需要が減少しているものの、半導体関連製品の需要が好調。しかしながら、4Qは調整局面により若干落ち込む見通し。



高機能製品

長期目標 | グローバル・ファースト・サプライヤー

長期戦略

- コアコンピタンス（無酸素銅・合金の開発及び製造技術、機能材料開発、接合技術等）を磨き、組合せ、新製品・新事業を創出
- マーケット起点で、勝ちパターンを追求

22中経戦略の具体的施策

- 事業部間を横断したキーアカウント責任者の設置
- AI・IoTの活用による情報分析（デジタルマーケティング等）
- 製品ロードマップの顧客との共有（共創力）
- 中央研究所との連携による製品開発
- ものづくり力の強化（量産技術、生産効率の向上等）
- M&A、アライアンスの検討

2020年度の進捗

- キーアカウントマネージャ責任者を任命
- MA・SFA・CRM（※）を導入し活用を開始
※ MA：マーケティングオートメーション、
SFA：営業支援、CRM：顧客情報管理
- 当社の製品ロードマップについて、顧客と議論着手
- 中央研究所で新規めっき技術に関する開発着手
- デジタル技術活用の、ものづくりにおけるテーマ選定、導入ロードマップ策定
- M&Aやアライアンスのターゲット規模、市場、当社戦略整合性など多面的に検討



トピックス

TOPICS

銅加工事業の成長戦略

銅合金拡販に向けた取り組み

- ◆ 三菱伸銅社統合完了（2020.4）
バリューチェーンのシームレス化を加速
- ◆ 製造・営業・開発が一体
となった顧客対応により
MSPシリーズ合金の採用
・拡販を実行中



大型投資の実行

- ◆ 圧延事業拡大・押出事業再編をターゲットとする約300億円規模の大型投資については、新型コロナウイルスの影響を踏まえても、骨格を維持する

【堺工場の素材供給能力拡張】
2020年度着工、2022年度稼働予定

マーケティング力・技術開発力の向上

- ◆ MA/SFA/CRM（前頁参照）を活用し、
効率的なマーケティング・営業活動を本格化
- ◆ 製品ロードマップに基づく製品開発・上市
 - 次世代自動車用高性能純銅および銅合金の開発
 - ・ 小型端子用銅合金
 - ・ 大電流端子・バスバー用銅合金
 - ・ 大電流バスバー用高性能無酸素銅
 - 次世代鉛フリー快削黄銅「グローブラス」
 - ・ メタルコストを抑制した鉛フリー黄銅
 - ・ 従来品の快削性・高強度は維持
 - ・ 熱間加工性の向上により幅広い展開が可能
 - ・ SDGsに貢献する画期的な素材

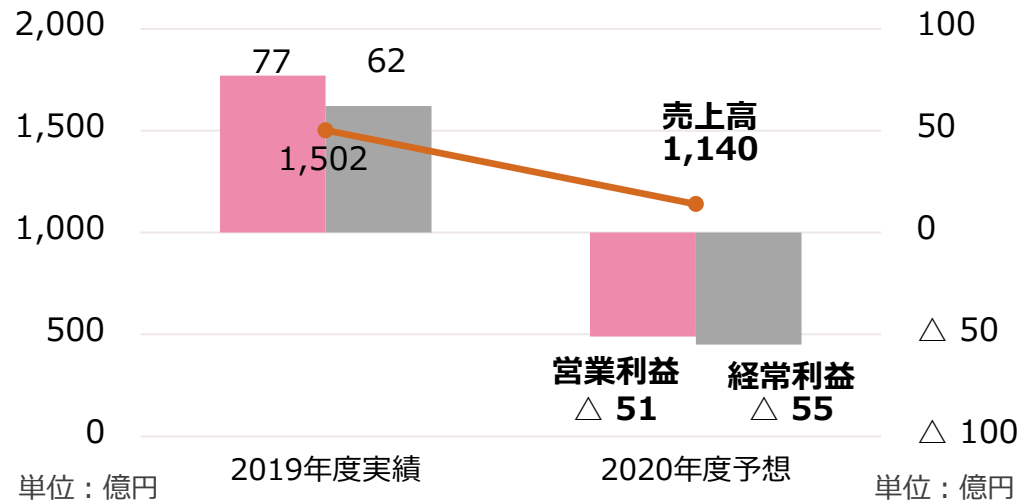
加工事業





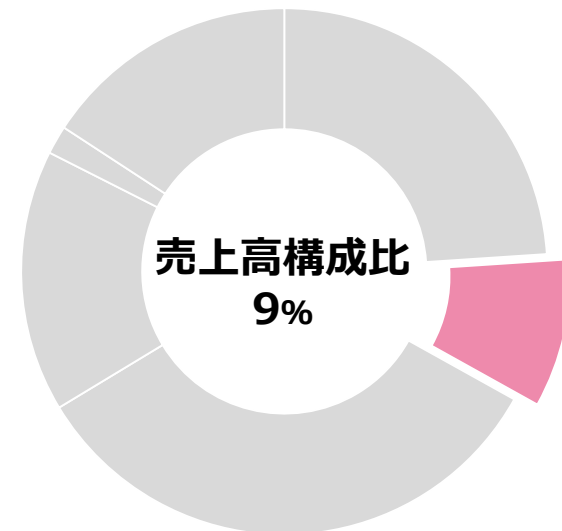
加工事業

連結業績推移



事業別売上高比率

※外部顧客への売上高（2020年3月期）



2020年度 事業概況

◆ 超硬製品

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自動車向け製品等の需要が減少。
- ・上期から下期にかけて回復するものの、年間では前年度水準までの回復には至らない見通し。
- ・産業別では、自動車向けのみならず、航空機や金型向け需要も低迷。
- ・地域別では、中国向け需要は上期に回復したものの、その他地域は上期需要減により前年度水準までの回復には至らない見通し。



加工事業

長期目標

戦略市場でのトップ3サプライヤー

長期戦略

- クリーンなものづくりの推進
- 先端技術を活用した高効率製品の提供
- 高機能粉末事業の展開

22中経戦略の具体的施策

- 超硬リサイクルの拡大と再生可能エネルギーの活用
- 高効率工具とデジタルソリューションの提供
- スマートファクトリー化と物流・供給の効率化
- 電池市場向け高機能粉末事業の拡大



2020年度の進捗

- 超硬リサイクル原料の使用比率：計画を上回る
再生可能エネルギー：調達手段の検証を開始
- 切削データの収集・解析システム提供をパイロットユーザーで評価開始
- 生産・在庫・販売データの新たな基幹システムの基本構想を策定
- タングステンを添加した負極材試作品を電池メーカーにて性能評価開始



トピックス

TOPICS

Masan High-Tech Materials Corporation（MHT社）への出資（2020年11月:持分比率10%）

戦略提携の目的

超硬工具主原料であるタングステンの安定調達	MHT社の子会社およびパートナー企業：ベトナムおよび中国のタングステン鉱山権益を保有
タングステンリサイクル事業の共同運営	MHT社傘下のHCスタルク社：ドイツに世界最大規模の超硬スクラップリサイクル施設
高品質タングステン粉末製造に関する技術提携	タングステン事業を成長の柱の一つとし、超硬リサイクルや高機能粉末事業の拡大を加速

江钨世泰科钨品（贛州）有限公司（W精錬業）
世泰科江钨特种钨（贛州）有限公司（W/WC粉末製造）
中国・江西省

H. C. STARCK CANADA INC.
（W/WC, Mo系粉末の製造販売）
カナダ・オンタリオ州

H.C. STARCK TUNGSTEN GmbH
（W/WC粉末の製造販売）
タングステンリサイクル拠点
ドイツ・ゴスラー

Masan High-Tech Materials Corporation
（タングステンの製錬、粉末製造ならびに
タングステン及其他鉱石のリサイクル）
ベトナム・ホーチミン

NUI PHAO MINING
（W鉱石採掘）



● はMHT社傘下の関係会社拠点



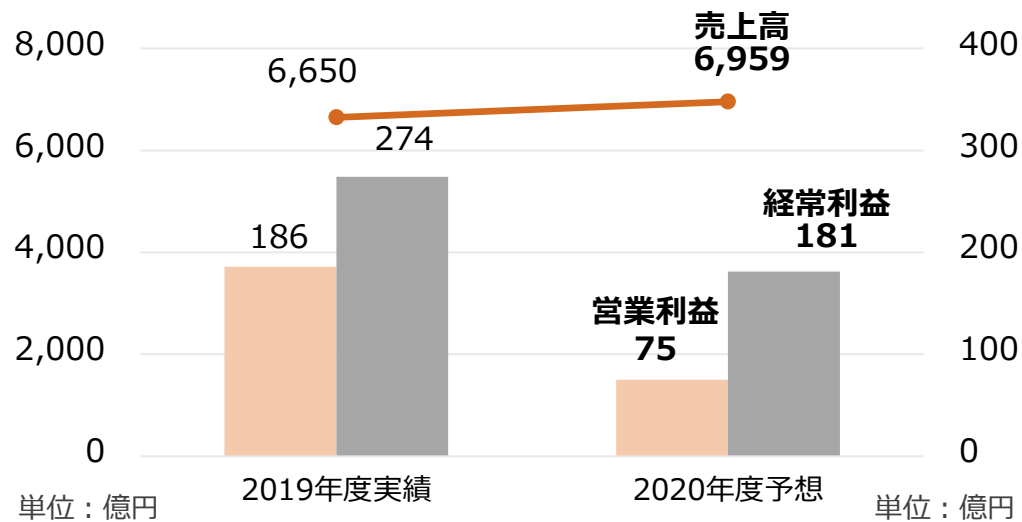
金属事業





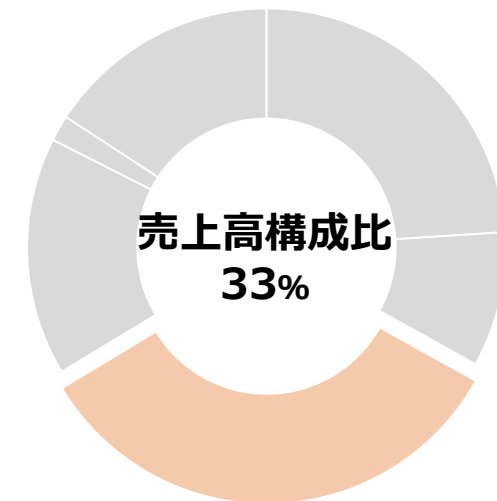
金属事業

連結業績推移



事業別売上高比率

※外部顧客への売上高（2020年3月期）



2020年度 事業概況

◆ 銅鉱山

- ・前年並みの年間 125億円の受取配当金を見込む。

◆ 銅製錬

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う海外からのEスクラップ集荷量減少により、第3四半期を中心にマージンが減少する見通し。
- ・今期、直島製錬所やインドネシア・カパー・スメルティング社において、隔年の定期炉修実施。



金属事業

長期目標

環境親和型製錬ビジネスのリーダー

長期戦略

銅を中心とした非鉄金属の安定供給と循環

- クリーンな銅精鉱とE-Scrapからなる持続可能な原料ポートフォリオの形成
- リサイクルの推進
- 気候変動への対応

22中経戦略の具体的施策

- 新規鉱山投資によるクリーンな銅精鉱の確保
- 銅精鉱中不純物除去技術の開発
- 有価金属マテリアルフロー最適化
- 化石燃料の削減



2020年度の進捗

- サフラナル鉱山は2020年中の環境許認可申請開始を目指し準備中、マントベルデ鉱山はプロジェクト参画に向けた条件交渉中、2021年1月中の妥結を見込む
- 2020年4月1日に鉱業技術研究所を発足、新技術開発に向け取り組み開始
- 直島におけるスライム処理工程改善起業、細倉・生野における錫回収強化起業を完了し操業を開始
- E-Scrap投入量制約因子把握等の調査・検討を計画通り推進



トピックス

TOPICS

新規鉱山投資によるクリーンな銅精鉱の確保

マントベルデ 鉱山

- 2020年2月にマントベルデ鉱山を運営する事業会社であるMantoverde S.A.社の権益30%を取得することで合意
契約当事者にとって受け入れ可能なプロジェクトファイナンス組成や必要な許認可の取得が、株主引受契約上の主なクロージング条件
- 銀行団とプロジェクトファイナンスの組成を進めているが、一部銀行の機関決定プロセスが遅れており、株式引受契約のクロージングは2021年1月中を想定
- プロジェクトファイナンスの組成が完了次第、拡張工事に着工予定

サフラナル 鉱山

- フィジビリティ・スタディ完成
- 2020年中の環境許認可申請手続きの開始を目指す
- 今後、詳細エンジニアリング、建設許認可等を経て、2022年に最終投資判断に至る予定

その他 新規案件

- 事業継続のためのプロジェクトパイプラインの拡充を目指し、他新規案件も開拓中



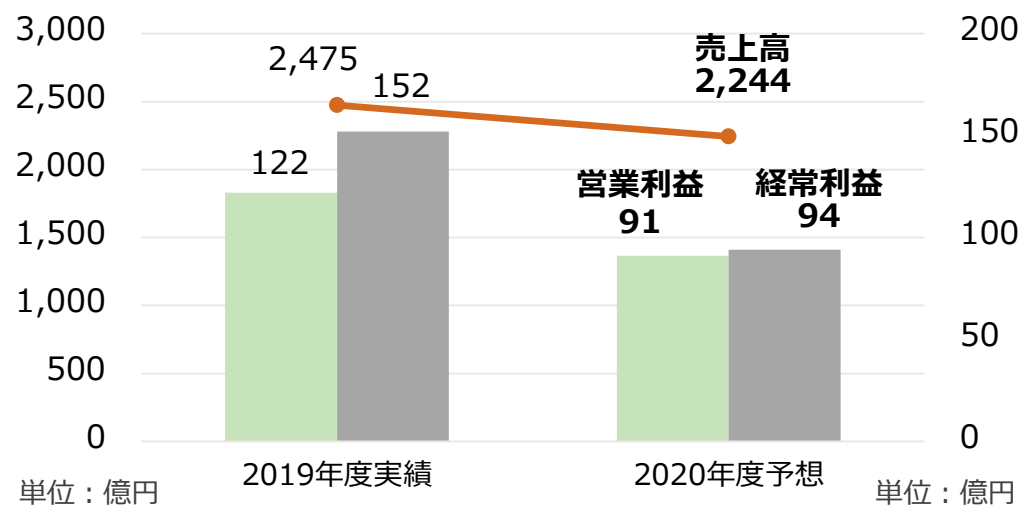
セメント事業





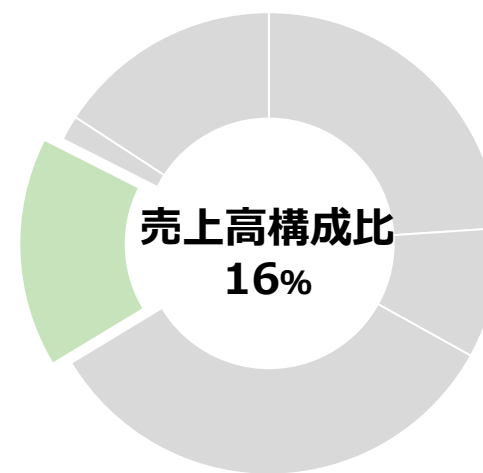
セメント事業

連結業績推移



事業別売上高比率

※外部顧客への売上高（2020年3月期）



2020年度 事業概況

◆ 国内

- ・第1四半期に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一部工事の中断があったこと等により、セメント国内総需要は前期を大きく下回ることを見込む。
(2019年度実績 4,097万 t ⇒ 2020年度見込み 3,950万 t)

◆ 海外

- ・セメントは、当社グループの生コン会社向を中心に前期を上回る販売を見込む。
- ・生コンは、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は限定的に留まっており、ネバダ地区等での拡販により販売増を見込む。



セメント事業

長期目標 | 高度な環境技術を持つ、国内外のセメント業界のリーダー

長期戦略

- 社会インフラ・防災インフラ等整備のための建設基礎素材の安定供給
- 廃棄物処理の高度化
- CO₂削減による気候変動への対応
- 事業再編による強靱な国内事業基盤の構築と海外市場における成長

22中経戦略の具体的施策

- 国内事業再編による、生産体制の最適化・効率化
- 廃プラ処理設備能力増強と塩素ダスト洗浄設備設置
- 低温焼成技術の導入とCO₂削減、回収、資源化に向けた技術開発
- 米国事業の拡大と海外新規拠点の開拓



2020年度の進捗

- 2022年4月を目途に宇部興産株式会社とのセメント事業およびその関連事業等の統合に関する統合契約書を締結（9月29日）
- 2022年度の廃プラ増強設備導入に向け省エネ補助金申請を準備中。
- 2021年度の低温焼成設備、CO₂分離設備の導入に向け設計中。
- 骨材鉱山（南カリフォルニア地区）、生コン工場（北加）の買収に向けて協議中。



トピックス

TOPICS

宇部興産株式会社とのセメント事業等の統合

【目 的】

- ◆ セメント事業を宇部興産株式会社と統合
 - ・ 2022年4月1日を目途
- ◆ 国内セメント事業
 - ・ 生産体制の最適化
 - ・ 販売・物流体制の再構築
 - ⇒ バリュチェーン全体の効率化、シナジー効果を最大化

《社会インフラ整備、循環型社会の発展に貢献》
- ◆ 経営資源の成長分野への集中投下
 - ・ 海外のセメント・生コンクリート事業
 - ・ 高品質石灰石ベースの高機能無機材料事業など

【日 程】

2020年9月29日 : 統合契約書締結
 2021年4月（予定） : 新会社設立
 2021年6月（予定） : 両社の定時株主総会における統合承認取得
 2022年4月（予定） : 統合の効力発生日

【統合契約書において合意した対象事業に係る価値評価および承継する純有利子負債額】

	三菱マテリアル 対象事業	宇部興産 対象事業
調整後企業価値	2,560億円	1,920億円
調整後純有利子負債	716億円	76億円
株式価値	1,844億円	1,844億円



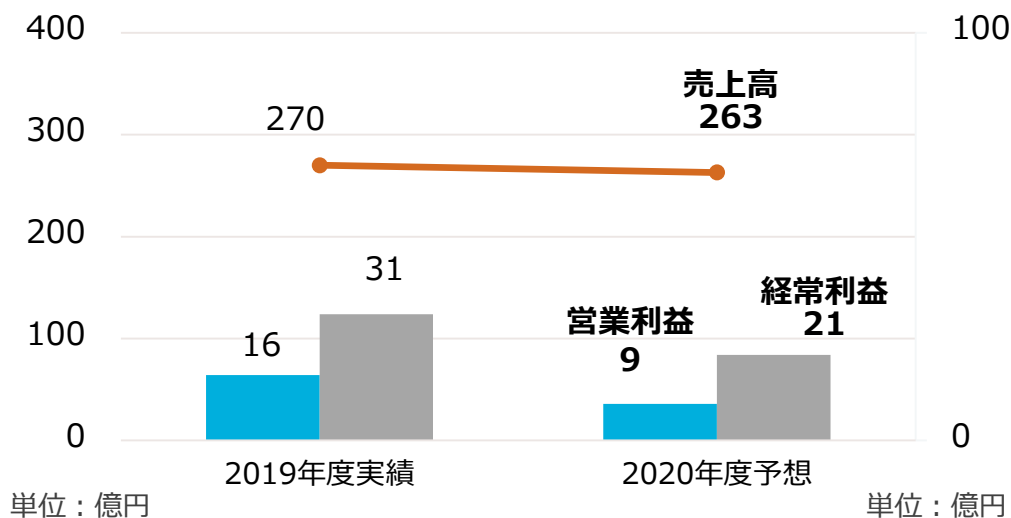
環境・エネルギー事業





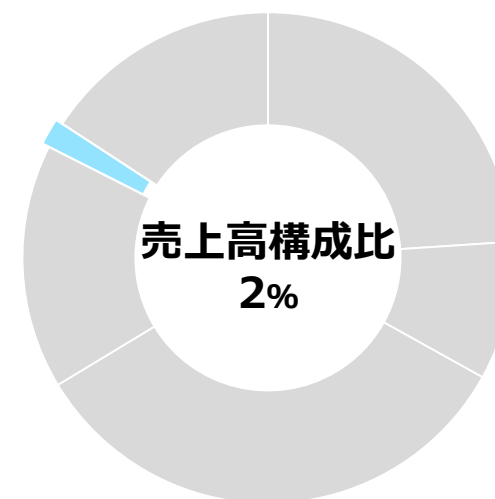
環境・エネルギー事業

連結業績推移



事業別売上高比率

※外部顧客への売上高（2020年3月期）



2020年度 事業概況

◆ 環境リサイクル

- ・焼却飛灰リサイクル事業は、「北九州アッシュリサイクルシステムズ社」において、安定操業化に向けた取り組みを推進中。
- ・食品廃棄物バイオガス化事業は、「ニューエナジーふじみ野社」が、本年9月より営業運転開始。

◆ 再生可能エネルギー

- ・昨年5月に稼働した山葵沢地熱発電所は、順調に操業中。
- ・小又川新水力発電所及び安比地熱発電所の建設工事は、共に順調に進捗。



環境・エネルギー事業

長期目標

（環境リサイクル）資源循環システムの牽引者
（再生可能エネルギー）地熱開発のリーディングカンパニー

長期戦略

- トレーサビリティの徹底等による安心できるリサイクルシステムの提供
- 再生可能エネルギー事業の拡大による脱炭素化

22中経戦略の具体的施策

- 家電リサイクル事業の拡大、自動化推進、回収物高付加価値化
- LiBリサイクル技術の実証、太陽光パネルリサイクル技術の実証
- 焼却飛灰リサイクル事業とバイオガス化事業の安定操業
- 小又川新水力発電所の完成、安比地熱発電所建設、新規地熱地域の調査



2020年度の進捗

- 家電リサイクル
自動選別ピッキングロボットの実用化
- 自動車リサイクル
LiBの一貫適正処理システム実証事業開始
- バイオガス化事業
ニューエナジーふじみ野社、営業運転開始
- 発電所建設
小又川新水力発電所、安比地熱発電所共に、順調な進捗



TOPICS

食品廃棄物のバイオガス発電プラント営業運転を開始

～1日40トン进行处理、最終処分場の延命や地球温暖化防止にも貢献～



- ◆ 本年9月4日、食品廃棄物のバイオガス化及び発電電力の販売を目的とした「ニューエナジーふじみ野株式会社」が、営業運転を開始（2018年5月設立、2019年7月プラント施設建設開始）
- ◆ 処理過程で発生する廃プラ、汚泥などを、当社セメント工場で原料や熱エネルギー代替として再資源化する独自の事業スキームを構築
- ◆ 最終処分廃棄物ゼロ、CO₂排出量の削減が可能となり、最終処分場の延命や地球温暖化防止にも寄与
- ◆ 株式会社地球クラブとの間で、再生可能エネルギー電気特定卸供給に関する契約を締結し、12月1日より特定卸供給を開始

お問合せ先

三菱マテリアル株式会社

経営戦略本部 コーポレートコミュニケーション部 IR室

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

TEL : 03-5252-5290

URL : <https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。

本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。